

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩

全国青年集会の成功に向けて

第57回全国青年集会実行委員会を6月8日から9日、同和企業センターでひらき、各府県連の代表者45人が参加、和歌山県連から12人の青年対策部員と事務局が参加した。



分科会の内容を議論した

分科会について「これからの青年部活動について」など、4つのテーマで4分科会、フィールドワーク「和歌山県水平社創立90年―地域の歴史と水平社運動に学ぶ―」がおこなわれることが決定した。第57回全国青年集会和歌山市・県民文化会館で9月21日(土)、22日(日)にひらかれる。

地元歓迎あいさつとして、池田清郎・県連副執行委員長は「全国青年集会の成功に向け、県連として全力でサポートしていく。この厳しい状況のなかでさまざまな課題をかかえているが、全国の仲間と実行委員会をとおして課題にたいするとりくみをすすめてほしい」とあいさつした。

青年の役割とは―部落解放運動のブランドデザインを創造しよう―と題した学習講演がおこなわれ、青年部の今後の方向性や青年がとりくむべき課題を学習した。

藤本哲史・県連書記長から「和歌山県における部落解放運動と部落差別の実態」と題した記念講演がおこなわれ、和歌山での差別事件の現状や子ども会のあるゆみなどの報告がなされた。

部落解放第57回全国青年集会実行委員会



和歌山の実態を報告する藤本書記長

50年目の節目に決着を

狭山事件

石川一雄さんが無実の罪で逮捕されたのが1963年5月23日、狭山事件から50年目を迎えるこの日に日比谷野外音楽堂で「狭山事件の再審を求める市民集会」がひらかれ、和歌山から60人が参加した。

集会は、小室等さんのミニコンサートではじまった。石川一雄さん・早智子さんは「三者協議がひらかれ129点もの証拠開示がされ狭山にも風が吹いてきている。50年という節目の年、

先人の思いを受けつぎ

平井水平社90周年

6月1日、平井文化会館で「平井水平社90周年記念集会」がひらかれ、来賓、支部員約100人が参加した。集會では、瀧口秀光・支部長から「水平社の結成や支部活動の経過」を含めたあいさつがおこなわれた。つづいて、池田清郎・副支部長から「水平社90年の闘い」と題し、結成の意義や水平本願寺建立などを中心とした基調報告がされた。

この後、県および市行政、県議会から代表の来賓あいさつがあった。

集會につづいて、田上武・県共闘会議議長の発声で乾杯があり、レセプションがスタートした。

平井水平社は、県水平社結成直後の1923年6月1日、地区内の善教寺で1500人が参加して結成大会がおこなわれている。なお、この日は記念集会の前段で、第44回平井支部定期大会もひらかれ、運動方針などが決定された。

水平社創立90周年記念レセプション 部落解放同盟 平井支部



あいさつする瀧口秀光・支部長

狭山事件の再審を求める市民集会

無実を叫び50年！いまこそ再審開始を！

主催 狭山事件の再審を求める市民集会実行委員会



50年目の今こそ再審開始を訴える石川夫妻

集會が閉会したあと、日比谷公園から常盤橋公園まで約55分間を、1日も早い再審の開始を求めてデモ行進をおこなった。

頑健

東京の帰り「古事記」の解説本(論評)を読んだ。以前にもある作家の下世話な解説を読んだが、今回は少し真面目な内容である。「古事記」は、朝鮮半島からの侵略者である「ヤマト王権」と「朝廷(律令国家体制)」の正当性と神格化をねらって「日本書紀」とともに国家事業として8世紀はじめに編纂された▼明治以降「日本書紀」をよりどころに「皇国史観(天孫降臨・万世一系)」の構築のなかで「古事記」の評価が曖昧にされてきた。しかし、古事記こそ国家形成の深層が書かれていると思う▼神話や伝承をもとに先住者と侵入者の関係を軸に書かれているが、そこには侵略・隷属・同化・排除の歴史と骨肉相食む状況がみえる。もちろん、かの作家の下世話な話(笑)もふんだんに含まれている▼また、各地に祀られている「神」の多くが敗者であるが、これは勝者が「崇り」「罪」を恐れ「祓う」ためのものであり、古事記もその類かも▼難しい話は別に、朝鮮と日本の関係は「稲作」をはじめ紀元前からのこと。互いの個性が刺激しあい、交じり合い新たな個性が生まれる。「キムチ」や「着物」はその代表格。「韓国料理」を素直に好きといえ、楽しく「スンドubuチゲ」を食べ、歴史を語ろうではないか(笑)。(S・I)